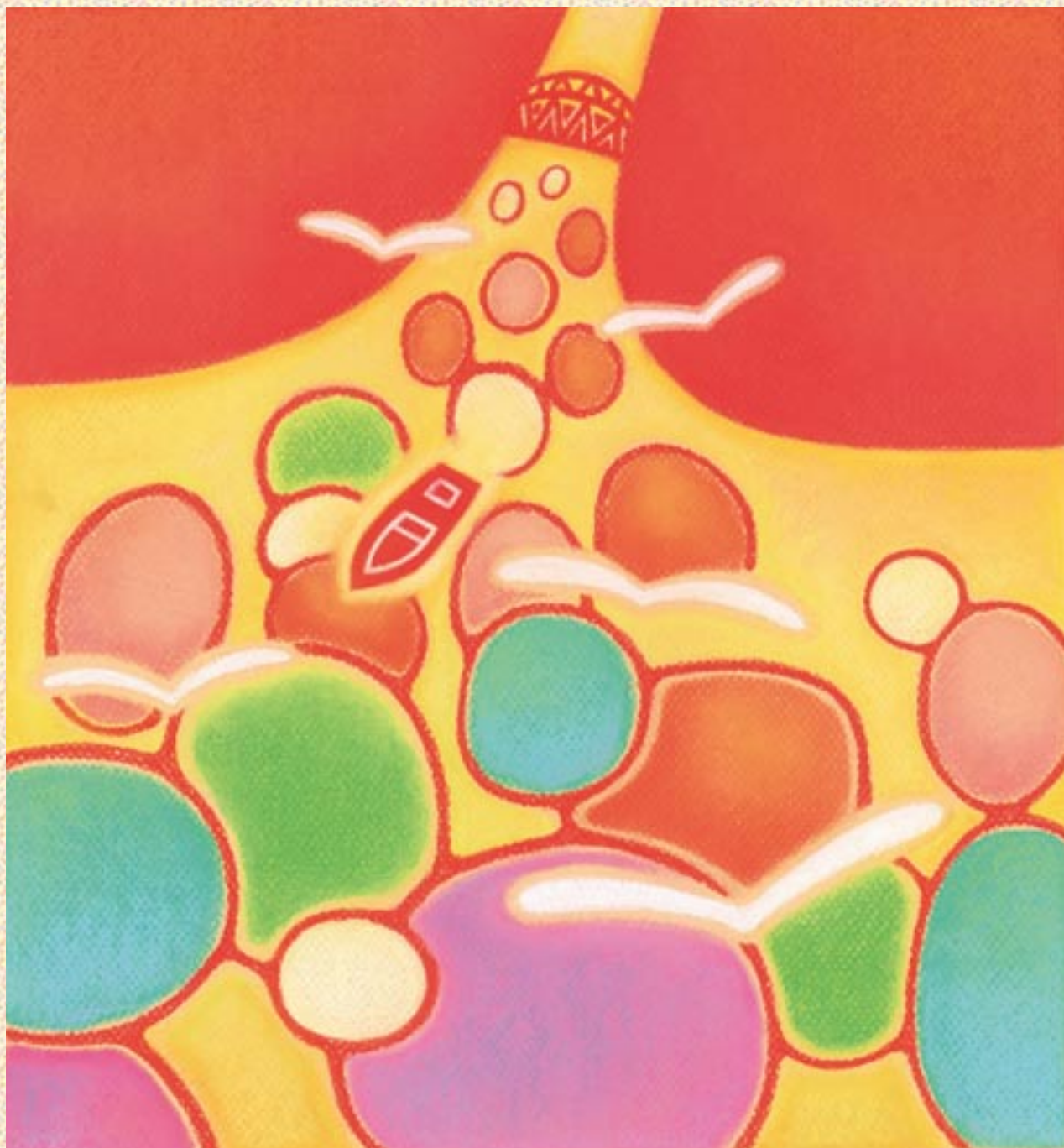


水戸市女性情報誌

びよんど

Beyond gender

2007.8 VOL.22



※びよんどの由来は？ Beyond gender(性差を超えて)の思いが込められています。ジェンダー(gender)とは、社会的、文化的につくられた性差のことです。

特集

「スーパーサイエンスハイスクール」

水戸市



「チャレンジショップからプロショップへ」

てづくりの店「綸^{りん}」

宮本 洋子さん
宮本 茂さん



赤塚駅前のミオス1階に、人の手のぬくもりを感じさせる品々が並び「てづくりの店 綸」があります。

「綸」は初め洋子さんが「まちの駅みと」で友人たちと始めたチャレンジショップでした。オープン当時はあまり関心を示さなかった夫の茂さんでしたが、今では、接客のみならず商品の製作にも関わっています。

自然な形で男女平等参画を体現しているお二人に、お話を伺いました。

50歳からのチャレンジ

宮本洋子さん、茂さんは、ともに水戸の出身ですが、茂さんの転勤に伴い20年以上東京で暮らし、水戸に戻ったのは2年ほど前のことでした。そのときに「まちの駅みと」でチャレンジショップの出店者を募集していることを知り、「てづくりの店 綸」をオープンしました。

「50歳くらいまで、ずっと経理の仕事をしていました。でも、50過ぎたら、体力が無くなるのが自分でもわかってきて、あー、いつまでもこの仕事はできないな、だったら何かないかなあ、自分の好きなことってなんだろうと考えていました。」

ほんの3か月ほどの間に、二人の娘さんが立て続けに結婚して、気が抜け



たようになっちゃったことせ、「これから」を考えるきっかけになりました。「更年期みたいになっちゃって仕事に行くのも億劫になっちゃうし、このまま事務職で終わったら何も残らないんじゃないかと思ってる。」

そこで思い出したのが若い頃に学んだ洋裁でした。

「勤めていた頃は、既製品を自分で直したり、娘や孫の洋服を縫ったりということはしていましたけど、人のものまでは手がけていませんでした。それで、50歳過ぎてからもう一度勉強し直したんです。」

「4年くらい勉強しましたね。習いながら作品を作りためて、友達と一緒に、デパートで開催される手作り展に出品するようになりました。」

5年間ほど、あちこちのデパートに出品していましたが、やがて茂さんが定年を迎えます。母親が水戸で一人暮らしをしていたため、二人揃って帰ってくることになりました。

「いつかへ帰ってきたらもうやめようかとも思っていたんですよ、年だから。家で作って、ギャラリーなどに出してもいいかな、と。でもじっとしていられなくなっちゃって。自分のでかまを縫ってたらやっぱりこれだな、と思ってる。」

その後ミオス内に試験的に出店、平成19年1月からは、現在の場所にプロショップとしてオープンしました。自分の作品の他に、委託された作品の販売もしています。しかし、スペースの関係でミシンが置けないため、茂さんが店に立ち、洋子さんは家に帰ってミシンでの仕立てや直しをしてくることも多いとか。今では洋子さんが店に顔

を出すのは週に2日ほどです。それでも、茂さんは初めお店には一切タッチしていませんでした。

「まちの駅のとときは、朝送ってくれて帰りに迎えに来てくれるだけでした。ミオスに移った当初はもう少しスペースが広がったので、テーブルを置いて、お茶なんか飲みながら私が働いているのを見ていたんです。」

その後、現在の場所に移ることになったときには、一人でどこまでできるのか、という迷いがあったといいます。

「どうしよう、やめてしまおうか?とも思いましたが、せっかくお客様も付いたのもつたないということになって。でも、初め主人は馬鹿にしていたんですよ、そんな安いもの作ってもしょうがないだろう、とが言ってる。」

そんな時、洋子さんが教えたのが布で作るとんぼでした。

とんぼは前だけ見て進む

長く商社マンとして働いていた茂



茂さん製作の「しあわせとんぼ」

さんは、それまで手芸など一切したことはありませんでした。

「初めは見よう見まねでした。それでも半年くらいするといろいろわかってきて、前のは駄目だ、へただと捨てたりしました。生地を細くするととんぼ自身に張りが出てきます。同じ生地を使っても、絵柄の出てる所が違くと全然違う表情になる。それによって目玉の色を変えてみたり、しっぽの色を変えてみたり。同じものが二つとできないようにしています。500匹以上作ったかなあ。」

今では作ったとんぼのアレンジを考えたり、少しずつ余ってしまった布を無駄なく使って別な形のブローチを作ったり、ビーズのイヤリングを作ったりもしているそうです。

「色合いなど組み合わせを工夫するのも楽しいですね。どうしたらお客様に喜んでもらえるか、考えて作っています。」

定年後、新しく打ち込めるものを見つけたのはなかなか難しいのですが、茂さんは現役時代とは全く違うことにチャレンジして、自分なりの楽しみ方を見つけたようです。

「現役のとときはビビリした空気の中で働いていたようですが、ここでは周りの人間関係にも恵まれて、毎日楽しくて仕方がないみたい。」と洋子さん。

「とんぼって後ずさりしないんですよ。前進しかしない。だから縁起物なんです。これはお客様に聞いたんですよ。初めて知って、余計作りました。お店をしていると、お客様に教わることも多いです。」

お客様に背中を押されるように、オーダーも引き受けるようになりました。

「最初は全部お断りしていました。委託販売だけでもいいかなあと思って。でも、手作りの店、ということもあって『オーダーやらないんですか』という問合せが多くて。どうしようかと思っていたら、ここに作品を置いてある方がオーダー受けてもいい、縫わせてくださいと言ってくださって。」

「綸」は太い糸

これからは、機会があれば、作り方を教えることもしたいとのこと。今は自分達のための勉強として、つるし雛を製作しているそうです。

「つるし雛は、生地がいいものでないとい作品にならないので、質のよい生地を染色して使うなどして、他にないものを作ろうと二人で知恵をほっているんです。」

「同じものが二つとないのが手作りの良さだよ。作る人が変わると、全然違うものになってしまう。既製品にはないぬくもりも感じられる、そういうところがいいんですよ。」

店名の「綸」とは「太い糸」という意味だとか。

「糸を使う仕事だからと辞書で糸偏をずっと探していったら、『綸』という字を見つけたときに、これだ!と思いました。」

広がっていく太く強い糸。どんな作品が生まれるのか、「綸」がこれからどう展開していくのか楽しみですよ。



特集

国際的に活躍する女性科学者・研究者を目指して

スーパーサイエンスハイスクール

茨城県立水戸第二高等学校では、平成18年度から22年度までの5年間、スーパーサイエンスハイスクール（以下SSH）に指定されたことを受け、①「科学大好き人間」の育成、②「国際的に活躍できる女性科学者、研究者」の基盤づくりを目標に、様々な活動に取り組んでいます。

具体的には、1年生全体に①の目標達成のため、総合的な学習の時間を使い自然科学体験活動学習を、また中学校理科との関連を考慮しながら、「科学に対する関心を高め、科学的な見方や考え方を養い、自然に対する総合的な見方や問題解決能力を持った生徒を育成すること」を目標に、独自のカリキュラムを編成し、それに基づいて授業を行う「自然科学概論I」を実施しました。

また、全校生徒・教職員、保護者等を対象にSSH関係の講演会を2回実施。生徒へのキャリア教育も兼ねた意

識付けのために、一流の女性科学者・研究者にこだわって講演を依頼したため、生徒の科学全般に対する関心が高まりました。

科学系部活動を中心に、大学・研究機関において先端科学技術研究施設等を活用した研究体験（サイエンスラボ）も行われました。一流の研究者から直接指導を受けることで、研究に対する意欲をより高めることができます。地学部の子はプラハで開かれた国際天文学連合の総会に参加し、ポスターによる発表を行いました。日頃の英語の授業には出てこない専門用語や表現に苦戦し、思ったことを言葉にできない悔しさを味わったとのこと。国際性を育てるために必要な語学力の強化もSSHの取り組みの一つです。

今年度の2年生にはスーパーサイエンスクラスを1クラス設置、学校独自のカリキュラムのもと、グループごと



地学部 IAU 総会発表（プラハ）

の課題研究に取り組んでいます。

SSH校には、近隣の小中学校に向いて出前授業を行い、子どもたちに科学のおもしろさを伝えるという役目もあります。子どもたちに教えることは思ったよりやりがいのある、楽しい経験だったそうです。

このような初年度の取り組みの成果として、理系の進路を希望する生徒の増加と、全校生の科学に対する意識の高まりが挙げられます。これまで35%程度だった理系希望者が、18年12月の時点で約45%となりました。また、各小中学校でのSSHに対する興味も高まっているようで、更に科学に関心の高い生徒の入学が期待されています。

今後は、より一層の高度な実験実習等を通して、理工学系に進む生徒を増やし、将来、国際的に活躍する科学者や研究者、技術者となる人材を育てていきたいという思いです。

スーパーサイエンスハイスクール(SSH)とは

文部科学省が指定する、科学技術・理科、数学教育を重点的に行う高等学校及び中高一貫教育校。理数系教育に関する教育課程等の改善に資する実証的資料を得るため、平成14年度から指定が始まった。併せて、将来の国際的な科学技術系人材の育成や高校・大学の接続のあり方についての検討の推進を図る。



お茶の水大学・大森研究室にて

団体・サークル紹介

子育て応援・ペンギンくらぶ

子どもを安心して育てられる環境、子育て中も子どもと一緒に様々なことにチャレンジできる環境の整備のために、水戸市を拠点に茨城県内で、会員約400人、ボランティアスタッフ約70人で活動しています。

子ども連れで楽しめる公園や店、育児情報を載せた子育て応援情報誌を年4回発行しています。また、公共施設やデパートなどを、子どもをベビーカーに乗せて視察する「ベビーカーでウォッチング」、子育て中の親が勉強や趣味を充実させるための各種「保育付き講座」、子育て中の生活を子どもも親も一緒に楽しむための「子連れイベント」を開催。「パパのための絵本講座」「パパのための親子ピクス」なども開催し、父親の育児も応援しています。



パパと一緒に、こんなポーズができるかな？
親子ピクスでは元気な笑顔がはじけて

子育て支援・多世代交流センター

「わんぱーく・みと」

「わんぱーく・みと」は、水戸の中心市街地である大町に、子どもを中心とした様々な世代の方々が集い、交流できる場として、今年4月にオープンしました。

施設内には大型木製遊具がある子育て支援ルームや子育て交流サロン、育児の悩みを相談できる相談室があります。子どもたちが安全に過ごすことのできる遊び場を提供するとともに、子育てに関する情報を発信しています。さらに、子育てパートナーとして、多くのボランティア団体や個人の皆さんに登録していただき、運営のお手伝いや利用者の皆さんか



らの相談、各種講座の開催などにご協力をいただいています。

また、保護者が急な用事などで、家庭保育が困難な場合にも、お子さんをお預かりする「一時預かり保育」も行っています。

オープン以来、連日100～200人の来館者があり、とてもにぎわっています。お母さんとお子さんが遊んだり、親子同士が交流したり、また、おじいちゃんやおばあちゃんがお孫さんと一緒に、そして週末にはお父さんと一緒にの利用も増えています。6月末には利用者が1万人を超えました。

これからは、高齢者や大学生、小・中学生との交流事業など、幅広い世代の方々に利用してもらうために、いろいろな催しや講座・教室などを企画していきます。

問合せ わんぱーく・みと 電話 303-1515

平成19年度キャリアアップ講座

6月26・29日、7月7日

「いきいき働くワタシ 応援セミナー」を開催しました

働く女性の多くが抱える問題…人間関係、仕事と生活のバランスや自己実現について考える、3日間の連続セミナーを開催しました。

指導は、キャリアカウンセラーの高坂美幸さん。セミナーは、これまでの自分が周囲とどのようにかかわってきたかを振り返り、仕事と生活のバランスを確認することから始まりました。

コミュニケーションの秘訣としては、「ピンチをチャンスに変える技」について考えました。クレームなどの「怒り」は、相手への期待が裏切られた時に生まれます。その期待が何かを理解することが必要。話をよく聴き、状況を確認すれば、相手の怒りに巻き込まれずに冷静に対応でき、それを新しい商機(チャンス)に変えることさえできます。事例を元にした説明は、参加者の皆さんにとっても心強いアドバイスとなりました。

最終日のグループディスカッションでは、起業家や社内で人材育成を担当する4人の女性をゲストに迎え、働く意義や生活とのバランスなどについて、活発に意見交換をしました。セミナーを終え「いろんな意見や働き方を知り、エネルギーをもらえた」「自分をもっと理解して、新しいことにチャレンジしたい」という皆さんの晴れ晴れとした表情が印象的でした。





9月は水戸市男女平等参画推進月間です

平成13年9月、「日本女性会議2001みと」の開催に合わせて「水戸市男女平等参画基本条例」が施行されました。その後平成16年に、総合的な施策の指針となる「水戸市男女平等参画推進基本計画」を策定、また、「全国男女共同参画宣言都市サミット in みと」を開催し、男女平等参画社会への意識の向上が図られました。

平成17年度より、毎年9月を男女平等参画推進月間と定め、男女平等参画映画祭、「ヒューマンライフシンポジウム2007」の開催、男女平等参画社会づくり功労賞や標語入賞作品の表彰などを行い、更なる意識の浸透を目指した取り組みを進めております。

男女平等参画映画祭

「筆子・その愛—天使のピアノ—」

障害児教育の母と呼ばれた井上筆子の生涯を描く

日時 9月8日(土) 午後2時開演

会場 水戸市国際交流センター

入場料 500円

主催 水戸女性会議

問合せ 男女平等参画推進課 TEL 226-3161

お問い合わせ / 水戸市役所 男女平等参画推進課 TEL 029-226-3161

平成19年度

ご応募
ありがとう
ございました

男女平等参画推進月間の 標語が決まりました

推進月間に向けて、男女平等参画社会の実現をイメージした標語を募集しましたところ、たくさんの応募をいただき、ありがとうございました。

選考の結果、最優秀作品1点、優秀作品2点、佳作5点が決まりました。最優秀作品となった石塚有貴さんの標語、「おたがいの 強さと弱さと 思いやり」は、男女平等参画推進月間のポスターに掲載します。



最優秀作品

おたがいの 強さと弱さと 思いやり

水戸市立堀原小学校5年 石塚 有貴さん

優秀作品

語り合おう あいて 男女を想う 優しい心

水戸市立第四中学校3年 飯塚 紫織さん

認め合い 寄り添う心で まっ 社会づくり

大洗町 横山 裕さん

佳作

日曜日 かわりにぼくが 血洗い
水戸市立笠原小学校5年 石澤 黎さん

平等な 明るい社会に 笑顔あり
水戸市立飯富小学校6年 小田木 美那さん

協力し 男女でつろう 明るい未来
水戸市立稲荷第一小学校6年 栗原 伸晃さん

支え合い 男・女で築く 街づくり
水戸市立赤塚中学校3年 山口 華さん

豊かさは 男女のちからの 積み重ね
水戸市 菊池 みとりさん



ヒューマンライフシンポジウム2007

個人が主役の生き方の時代に ～ワークライフバランス社会をめざして～



吉永 みち子氏
(ノンフィクション作家)



神原 千恵氏
(NHK 水戸放送局キャスター)

仕事とプライベートな生活とのバランスをとって生きるこれから、私たちはどのような社会をつくり、どのような生き方をしたいのか。自分の人生にとって大切なものは何なのか。大切にできる社会とはどのようなことなのか。皆さまとともに考えます。

- 基調講演「自分を生きるということ」
講師：吉永みち子（ノンフィクション作家）
- トーク & トーク
吉永みち子
神原千恵（NHK 水戸放送局キャスター）

- 日 時 9月30日(日) 午後1時30分
- 会 場 水戸市民会館ホール
- 主 催 水戸市
- 企画・運営 ポスト日本女性会議2001みと
- 入 場 料 無料（入場整理券が必要です）
- そ の 他 手話通訳、要約筆記があります。

- 申込み方法
ハガキまたはファックスに住所・氏名・電話番号・参加者数を明記のうえ、下記までお申込みください。
整理券はびよんどの窓口にも置いてあります。
- 問合せ・申込み先
〒310-0063 水戸市五軒町1-2-12
水戸市男女文化センター びよんど内
水戸市男女平等参画推進課
TEL 226-3161 FAX 226-3162

まちづくり研修会

市民と行政が協働し、まちづくりを進めるために、男女平等参画の視点から考えます。

- 日 時 9月22日(土) 午前10時から11時30分
- 会 場 びよんど
- 演 題 「楽しみながら実践するまちづくりの展望」
- 講 師 斉藤義則（茨城大学教授）
- 参加料 無料
- 定 員 30名
- 主 催 水戸女性フォーラム
- 問合せ 男女平等参画推進課 TEL 226-3161

ワークライフバランス講演会

女性の地位向上を目指し、働き方と暮らし方をともに考えます。

- 日 時 9月15日(土) 午前10時から正午
- 会 場 びよんど
- 演 題 「水戸駅発未来行き～私の生き方、働き方」
- 講 師 阪本未来子
- 東日本旅客鉄道株式会社水戸支社 営業部長
- 参加料 無料
- 定 員 30名
- 主 催 ポスト日本女性会議2001みと
- 問合せ 男女平等参画推進課 TEL 226-3161

男女平等参画社会推進のために・・・

○男女平等参画苦情処理委員会

男女平等参画に関する苦情の申し出を、公平・中立な立場に立って調査し、解決を図っていきます。詳細は、水戸市男女平等参画推進課までお問合せください。

○男女平等参画推進委員会

男女平等参画社会の推進のために設置された、市民・事業者・学識経験者から構成される委員会です。総合的な施策と重要事項を調査審議します。

・男女平等に関する・

相談窓口

家庭内暴力・セクハラ・人間関係の悩みなど、お気軽にご相談ください。秘密は厳守します。

- 相談日時 毎週木・土曜日 午前9時から午後3時まで
- 相談員 男女平等に関する相談員
- 設置機関 水戸市男女平等参画推進課
- 相談場所 水戸市五軒町1-2-12 「びよんど」内の相談室

- 相談専用電話 **029-233-7830 (ナヤミゼロ)**
- ※来所、電話どちらでも可（予約不要）。なお、相談料は無料です。

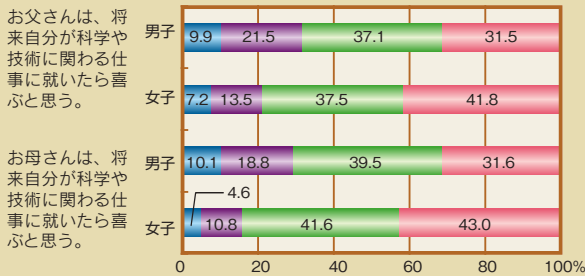


でた de 女・性・問・題 DATA

中学2年生からみた理科の学習に対する周囲の意識

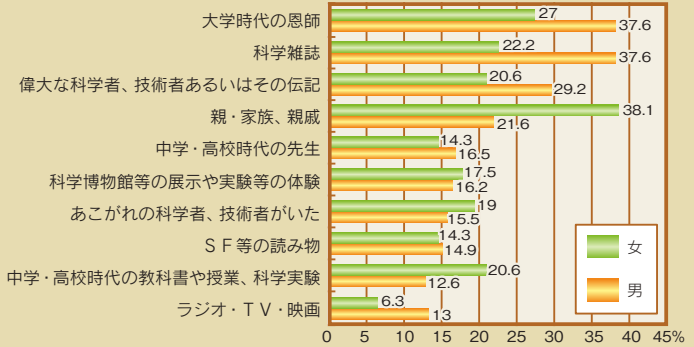


中学2年生からみた理科の学習に対する周囲の意識



「学校教育におけるジェンダー・バイアスに関する研究」(文部科学省・平成12～14年度)により作成

研究者という道に進む際に影響を与えた人物や事柄(上位10項目)



「我が国の研究活動の実態に関する調査報告」(文部科学省・平成17年度)により作成
選択可能数：無制限 全体 N = 1024、女 N = 63、男 N = 961

少子高齢化の進展に伴い、将来の科学技術を支える研究者の量的・質的不足が懸念されている状況の中、多様性の確保の観点からも、女性研究者の更なる活躍が求められています。しかし、男女平等参画の視点で、国民の科学技術への関心及び研究者の活動実態を見ると、男女間に開きがあるように見えます。科学技術分野への女性の参画割合が低くなる原因の一つは、理工系分野を進路として選ぶ女子が少ないことです。科学技術分野を学び職

業とすることについて、親が自分に期待していないと感じる女子が男子よりも多いことが一因としてあげられます。また、研究者の道を選んだ場合も、進路について親や家族の意向を男子よりも重く見る傾向があるのではないのでしょうか。最先端の研究開発を行なう研究者の多くが、男女の能力差を感じていないそうです。子どもたちが、性別にとらわれず、本当に希望する進路を選択できるように支援していきたいものです。

男女共同参画都市宣言

美しい自然に恵まれ豊かな歴史を育んできた、わたしたちのまち水戸
わたしたちは、水戸のまちをさらに輝きあふれる明日へとつなぐため、「平等・創造・平和」を基本理念とし、男女がともにわかちあい、ともにつくる社会の実現に向け、水戸市を「男女共同参画都市」とすることを宣言します。

- 1 わたしたちは、ともに一人ひとりが尊重しあい、平等のもとに生き生きと暮らせるまち水戸をつくります。
- 1 わたしたちは、ともに自らの意思で社会のあらゆる分野に参画し、次の世代へとつなぐ豊かでゆとりのあるまち水戸をつくります。
- 1 わたしたちは、ともに地球環境を守り、世界へ向けて、友情と平和の輪を広げるまち水戸をつくります。

平成8年4月1日

水戸市

編集後記

高校生の頃、「理数系は苦手」と思っていました。しかし、今振り返ってみると、興味を持てる分野もありました。思い込みのせいで、自分の世界を狭くしていたのかもしれませんが。不思議だなと思う気持ち、知る喜び、やってみようという精神を忘れずに、柔らかなあたまを持ち続けたいと思います。

- 発行日／平成19年8月
- 編集・発行／水戸市市長公室男女平等参画推進課
〒310-0063水戸市五軒町1丁目2番12号
水戸市男女文化センター「びよんど」内
TEL 029-226-3161
FAX 029-226-3162
- ホームページ／<http://www8.ocn.ne.jp/beyond/>
- 印刷／常磐総合印刷株式会社
- 表紙絵／七字純子